

## 令和4年度 鳥取県私立幼稚園・認定こども園教育保育研修大会 記録

### 《第2分科会》

“出来る”や“繋がり”に気付き、未来が広がる保育を目指して  
～SDGsを『じぶんごと』として捉えた取り組みの実践

認定こども園 かいけ心正こども園

発表者 長谷川 小春

指導助言者 荒金 太郎

司会者 大塚 奈津子

記録者 持田 英里香

### 【本研修会を受講して学んだことについて】

#### ・「SDGs」という言葉そのものについて

→研修を受講するまで言葉を聞いたことがなく知らなかった、または、聞いたことはあるが意識して実践していることまでしていなかった。必要なことであるという認識はあるが、実際にどのような活動がSDGsになるのかが分からなかったが、まずは保育者自身がSDGsに対して興味関心を持つこと、“じぶんごと”として捉えて意識して生活や保育をしていくことが大切だと気付いた。

#### ・どのような活動が「SDGs」になるのかについて

→SDGsは難しく、何か新しく知識をつけなければいけないという考えを持っていたが、研修を受けて、意識せずに過ごしていた生活や保育の内容の多くがSDGsに繋がっていることが分かり、SDGsに対するイメージが変わり、取り組むことに対するハードルが下がった。決して新しいことを始めなければいけないことはなく、まずは少し視点を変えて日々の活動や行動を見直すこと、普段何気なく行っている行動を一工夫することだけでも大きな進歩であることが分かった。活動や行動そのものを新たに変わっていくのではなく、SDGsの観点を持って生活や保育を捉えていくことが大切である。

#### ・子どもたちと共にできる活動について考えることについて

→保育者が大部分を指導しながら強制的に取り組ませるものではなく、子どもたちと一緒に何ができるか考えていくことが望ましいと感じた。「綺麗な海で遊びたい」「遊べる森を作りたい」など子どもたちならではの目標を掲げ、その手段としてSDGsの考え方を応用する進め方・取り込み方なども効果的である。

・子どもたちにとって「楽しい」活動であることの大切さについて

→SDGs の活動に対する子どもたちの様子を見てみると、「楽しい」「ワクワクする」「やってみてみたい」と前向きな気持ちで取り組んでいた。どのような遊びや活動でも達成感や充実感を得るためには「楽しい」「できた」という気持ちが不可欠である。子どもたちが「どうしてだろう?」「楽しそうだな」と興味関心を持つことができるようなきっかけ作りを行い、やらされている活動ではなく自ら進んでやりたいと思えるような環境づくりをしていくことが重要である。そして、それらが子どもたちの主体的な姿勢、価値観の形成やSDGsに関わる取り組み・行動の習慣化に繋がっていく。

・保護者を巻き込んで活動をするものの効果について

→子どもだけでなく保護者や家庭が一緒になって参加する形の活動を積極的に行うことで、家庭での話題や家族の触れ合いの手段の一つとなったり、環境に関する興味が芽生えたり、一人ひとりのSDGsに対する意識が高まったりする効果があると考えられる。子どもの価値観は家庭の習慣が大きく影響するとも考えられるため、保護者の意識改革も同時に行うことが大切である。

・SDGsに関する取り組みがどのような子どもの成長に繋がるのかについて

→SDGsに関する取り組みを行うことで、世界や環境に対して目を向け、少しずつではあるが知ることができる。それによって、自分と世界の人々や地球との繋がりを感じ、それぞれに対して思いやりの気持ちを持つことや、広い視点や多方面から物事を考えることに繋がると考えられる。また、「私にもできることがある」「私も世界を助けることができる」など達成感、自己肯定感や満足感を感じることができ、そうした気持ちがさらに次の行動に繋がる。

【本研修を受講して、今後の保育実践に生かしたいことについて】

・SDGsに関しての知識を増やすこと

→園や家庭、地域を巻き込んで活動するためにも、まずは自分自身のSDGsに関する知識を増やしていきたい。日常生活のなかで取り入れて見本となるよう意識して保育をしていきたい。また、自分や園児が行っていることで何がSDGsに当てはまるのか、どのようにすればSDGsになるのか、どうすれば実行できるのかなどを考えていくようにしたい。子どもたちと一緒に考えてられるとよい。

・今までの生活、環境を振り返ること

→新しいことを始めようとするのではなく、これまで行ってきたことを振り返り、SDGsの観点から見直していきたい。また、改善するにあたっては、子どもたちが「～してみたい」

と思うことができる活動になるよう工夫していきたい。そして、自然と「じぶんごと」として世界や環境に対して考えられるきっかけを作っていきたい。残飯を減らす、玩具を大切に使うなど、基本的な生活習慣の自立を促すことなども SDGs に繋がることを子どもたちにも伝えていきたい。

#### ・職員間で話し合う場を設けること

→環境は各園それぞれに異なることも踏まえ、現在取り組んでいる活動は何か、今後自分たちの園で可能な活動は何か、見直さなければいけない事柄は何か、を話し合い、改善すべきところは改善し、新たに始められることは始めていきたい。特に、保育教材の見直しに関しては、使用するものの判断基準や選択理由は慣例化されていることも多い。それらを改めて見直すことは、新しい SDGs の活動として比較的すぐに始められて効果も期待できるため、ぜひ取り組んでみたい。

#### ・子どもたちが興味関心を持ち、楽しめる SDGs の活動を考えていくこと

→子どもたちが主体性を持って活動に取り組めるよう、「楽しい」と感じることを大切にしていけることはもちろん、保育者自身も楽しみながら活動に参加していきことができるよう工夫したい。実感を伴った学びができるよう、体験を重視し、子どもたちが体を使って参加できる活動を工夫していきたい。

#### ・未満児への伝え方・活動内容を検討すること

→発表内でもあったが、未満児に対する活動は話をしても伝わらない部分が多く、活動として取り入れることが難しいと日頃から考えていたが、そうした中でも、何かできることはないか模索しながら保育を行っていききたい。

#### ・保護者や家庭と一緒に取り組む活動を計画・実施していくこと

→発表内でも家庭環境による差を埋めるための方法や、家庭や保護者への啓発が課題として挙げられていたが、どのように工夫すれば家庭の意識の差が埋まるのか、家庭でなかなか取り組むことができない子どもの経験をどのように確保していくのかを考え、実践していきたい。また、親子で取り組み、自然と興味関心を持つことができるようなイベントを入口とし、少しずつ家庭でも「じぶんごと」として SDGs の観点を持ちながら生活ができるような状態になるよう計画を立てていきたい。

#### 【ご意見・ご質問及び回答】

・3Rの観点として、江戸時代の文化を参考にしてみてはどうか。着物を仕立て直したり、活用して小物に作り替えたり、それでも使えなくなったものは雑巾やはたきにしたりと、古来より工夫して生活してきた背景がある。MOTTAINAI という世界的標語がうまれる

ほど、日本はものを大切にしてきた文化であることを伝えられるとよい。

→SDGsと聞くと、最近生まれた言葉のように感じますが、実は古くから日本に根付いている考え方・文化でもあることを再認識させていただきました。MOTTAINAIという言葉は本当に魅力的で、子どもたちにも大切に伝えていきたい言葉です。「昔の人もこんな風にね…」と話をすることで、よりリサイクル等が子どもたちにとって当たり前のものになっていくよう、働きかけていきたいと思います。

・発表内で、外国の映像を見て親近感を感じる子どもたちの様子が紹介されていた。年中・年長児程度の年齢であれば、エリックカールなど海外の作家の絵本などを通して外国に興味を持ち、調べ学習をするのも楽しいのではないかと感じた。

→本園でも、もう一步踏み込んだSDGsの取り組みを検討するにあたり、調べ学習やディスカッションのような活動を取り入れたいと感じています。現在は、保育教諭が伝えた情報を元に、子どもたち一人ひとりが自分にできることを考えることを中心とした活動を展開していますが、今後は、自分の考えを友だちと共有したり、気になったことについて調べたり発表したりする活動も行っていきたいです。子どもたちの興味を広げきっかけとして、絵本の世界はとてもイメージが湧きやすい教材であると感じますので、ぜひ実践していきたいと思います。

・古着や靴などの物資を送る支援は、発展途上国の人々が綺麗なものを身に着けることが出来るようになる半面、その製法技術や支援ゆえの安価さによって、支援された国の服飾市場の不健全化を招くといった話を聞いたことがあるのですが、それに関してどう思われますでしょうか。

→物資の寄付ばかり行っているのは、問題の根本的解決には至らないという点について、改めて気づかせていただく貴重なご意見でした。開発途上国の生産技術の向上や、市場の発展に子どもたち自身が直接関わることは難しいと思いますが、寄付することだけで満足するのではなく、どうして日本とその国に差があるのか、どうしたらその差を埋めることができるのかという点について考えることは出来ると思います。「服がなくて困っている人がいるから服をあげよう！」とするのではなく、「なんで服がないのかな？作り方を知らないのかな？材料を買うお金がないのかな？」と、問題の背景に迫るような問いかけをすることで、子どもたちの認識は変わってくると思います。今できる事がなくても、一度しっかり考えた経験は、いずれ行動を起こせる年齢・立場になった時の力となると思います。幼児教育の現場にいる私たちにできる事は、その“考える経験”を少しでも多く用意することだと思いますので、今後も、伝える事中心ではなく、やってみる事・考えることを中心としたSDGsの取り組みを検討していきたいと思います。

貴重なご意見、ご質問有難うございました。